

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	190100131		
法人名	株式会社メディカルシャトー		
事業所名	グループホーム白ゆり中央 鳥の館		
所在地	札幌市中央区南9条西7丁目1番28号		
自己評価作成日	平成26年6月22日	評価結果市町村受理日	平成26年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・白ゆり中央理念の『四つの心』を念頭におき、ご本人のペースを尊重しながら、家事活動等の役割を持って生活をさせていただいている。

・日常的にリビングに自然と集える雰囲気作りを行い、入居者様同士や職員に対しても、気遣いや励ましの言葉を掛け合いお互いに支え合っている関係性がある。

・食事が楽しい時間と感じていただけるよう、好まれる物や食べやすさに配慮した物の提供を行い、コミュニケーションを取りながら食事をさせていただいている。

・毎月の行事や茶話会、レクリエーション、ボランティアの方も積極的に受け入れ、入居者様が交流の機会を持てるよう工夫している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0190100131-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成26年8月6日(水)		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念の中に『地域の核となり和をもって輪を広げよう』と掲げ、朝礼でも復唱している。各フロア勤務者で「今日の理念」を一つ選択し、その理念に基づいた一日を過ごせるよう具体的目標に向かってケアにあたっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	西創成第4町内会に属しており、回覧板や定期総会への出席、ホームを地域行事の会場として開放する等、町内会と情報を共有し活動に参加している。また地域住民ボランティア員が継続的にホームへも関わり交流を続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事参加や介護予防『ふまねっと』講習会をホームを会場とし提供する等で、交流機会を設けて理解に生かしている。運営推進会議で介護サービスの説明や認知症に関する質疑応答の場がある。近隣住人から認知症介護の相談も受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回実施。定期報告の他、避難訓練の見学総評意見交換、お食事について、家族アンケート調査結果と改善報告・地域・家族交流行事の反省会等状況に即した議題を準備しご意見を頂きサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政へ申請や提出書類、制度について不明点は都度確認し、ご指導を頂きながら運営に努めている。又、地域包括支援センター職員に運営推進会議参加頂きアドバイスを受け協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故対策委員会を中心とし、指定基準に基づいて身体拘束がもたらす弊害や禁止行為11項目について等、スタッフ研修を行って勉強会を行っている。ホームフロア毎のエレベーターは常に開錠され使用可能な環境にあり、希望時は職員が同行して外出や散歩を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事故対策委員会を中心とし、法令の他、特に不適切なケアについては具体的な事例を用いてグループワークし個々がケアを考える時間を大事にスタッフ研修会を行っている。面談でストレスマネジメントやフロア業務改善にも取り組み防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事故対策委員会を中心に地域権利擁護事業や制度についてスタッフ研修会を行い学んでいる。実際に成年後見人制度を活用しており、管理者、職員は日頃から日常的に関係者と話し合いや関わりの機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や解約は、契約書類の読み合わせ補足説明を行ない質問・確認を取りながら実施。改定は必ず事前に文章説明を実施、必要時面会や電話連絡で直接補足説明や報告同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回ご家族アンケートを実施しご意見を頂く機会がある。又入居者個々にご家族要望シートを作成し面会・電話・fax等細かな情報共有からご要望までを記録し職員で共有、運営へ反映している。玄関に意見箱も設置している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回全体会議があり役員の出席があり直接運営状況の説明や意見が出来る。日常的に管理者と相談でき意見を話せる環境である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回代表者から『理念』について講話がある。個々に目標を設定し定期的な管理者・主任面談で努力や実績の振り返り、目標達成へ向けた話し合いがある。又勤務における希望等の相談も長く働き続けられるような環境である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回社内スタッフ研修会、外部研修は年1回は全員が参加をし、その内容を持ち帰りホームで伝達講習を実施し全体で共有している。又、資格取得についても、社内で試験対策勉強会を行ったりと積極的な取り組みがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区グループホーム管理者連絡会やスタッフ研修会が当ビル会議室を使用して定期的開催され他ホーム職員との意見交換や学びを通じて質の向上に役立っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フロアでは新入居は無かったが、その場合には入居前に管理者・計画作成担当者が面談しその情報を各職員にと情報共有、ご本人の性格や意見を知り、不安や淋しさが軽減でき安心していただけるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	フロアでは新入居は無かったがその場合では面会等でご家族の気持ちや要望をお聞きしている。ご本人の様子を細かく報告したり、積極的にお声掛けする事で話しやすい環境づくりを心掛け、関係性づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フロアでは新入居は無かったがその場合ではご本人・ご家族の希望と他サービスからの情報をセンター方式にまとめ、ケアプランを作成し支援を開始し職員間で情報を共有し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に調理・盛り付け・洗濯物たたみ、裁縫、鉢植えの世話等、役割を持ち職員と協力して行っており、こちらからお礼を伝えることで実感していただけるよう努めている。又、職員へ毎日調理の味付けや清掃のコツや手順を伝授して下さる方もいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月予定表や行事案内、白ゆり便りを発送し様子を報告、その内容にあわせ面会や行事にも参加して下さり、面会時も細かな報告に努めている。食事の介助等ケアプランの内容に協力して下さるご家族もあり、共に支える関係性がある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・友人の面会が日常的にあり、手紙のやりとりもある。又、ご家族と自宅へ戻られ馴染みの店や知人と会ったり、食事会や買い物に出掛けられたり、祝事や法事、お墓詣り等、馴染みの関係が継続されている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間や廊下にはソファや椅子を多く配置し、気分に合わせて居心地の良い場所を見つけ過ごしたり集うことが出来る。食事席やテーブル配置も工夫し、自然に入居者同士が集い会話や歌を唄ったりと関わり合いが出来る。又茶話会等、他階の入居者様との交流機会も日常的にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了以降も了解を得て入院先への面会を継続している方もいる。又ご家族から電話やお便りを頂くこともあり関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや会話で意向の把握に努めており、センター方式でのアセスメントやご家族からお聞きした希望やご本人の趣味嗜好が生活に反映できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から、これまでの生活歴を伺い、センター方式を活用して、その方らしい生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子を個別の状態に即した記録を作成して記入し、また体調の管理は温度版、ボディチェック表に記入、職員間で情報共有して、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの意見やご要望、安心して暮らし続けるための課題を日々の関わりやアセスメントで抽出し毎月モニタリングやサービス担当者会議を行い、職員間で話し合いを行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケアプランに即した介護記録用紙を作成し気づきや生活の様子を記入し定期的に見直ししている。申し送り表を活用しながら伝達を行い、情報を共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	傾聴・ピアノ・カラオケ・園芸ボランティアが入っており、歌の内容もご本人やご家族の希望で楽曲を変更するなどの対応も行っている。ディサービスと合同行事も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会主催の餅つき大会・ふまネット講習会、行事をホームで共同開催し町内の方を招いたり、神輿見学や学生合唱コンクール鑑賞と地域の繋がりが多い。通院時に送迎有償ボランティアを活用する方もある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に必ずかかりつけ医の確認を行い希望に合った医療の継続を支援。受診時は連絡調整や情報提供の対応をしている。専門医受診も同様に支援を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回看護師がフロア巡回し体調管理や健康相談、必要な指示を受けている。併設ティサービス兼務し巡回以外にも細かな連携が出来る。24時間オンコール体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	期間中入院は無かったが、その場合には職員が見舞いに訪れ関係性が維持できるよう努め、病院関係者とも小まめに情報交換を行う。往診が2週間に一回、外来受診時にも、体調や生活の様子を含め細かに状態報告している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームに重度化における指針があり、本人・ご家族・職員・看護師・病院との連携し支援している。病気や症状変化、状態を報告し、必要な時はご家族に往診に立ち会って頂き、早期から本人を含め直接関係者で話し合い方向性を確認している方もいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時・緊急時の対応や手当、救命救急研修をスタッフ研修会、外部研修で受けており対応マニュアルもあり繰り返し確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間3回防災訓練を実施、家族の参加もある。119番直通電話は3階に設置。緊急時連絡網に地域住民の番号を登録、駆けつけ応援体制がある。災害時を想定し部分訓練の実施や実際の震災事例を用いて勉強会を実施した。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った言葉かけ、申し送り等職員間の伝達にはインシャルを使用し配慮。トイレ誘導時等、羞恥に関わることは特に場所や言葉を選び対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で行動前に問いかかけの形で声掛けし自己決定して頂いている。会話が難しい方でも、表情等によりご本人の思いを汲み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人へ予定を確認、入浴・食事・掃除・外出等の実施や時間を相談し決めている。又、個々の体調や気持ちを尊重し生活リズムを作る支援を行い1日の職員の動きを決めている。業務は定期的に見直しを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人、ご家族と相談し入居前からの習慣や好みの色柄・種類を継続している。日常の着替えから、外出のお化粧や洋服選び・髪型も相談して身だしなみの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表の記入、下ごしらえや調理、盛り付け、果物切り、食後の下膳や食器拭き等様々に食事へ関わりがある。個々の嗜好にあわせ本人とも相談した上で必要時は代替品を用意し提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日中も都度摂取量が確認できるよう申し送り表と介護記録にも残している。個々に合せた食器の使用、刻み・トリス等の形態別の提供。本人のタイミングに合せ補食や栄養補助の飲料も作り提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に合わせ声掛け見守り・介助等口腔ケアの支援を行っており、口腔内の状態把握に努めている。必要時、歯科往診でアドバイスや指導を頂くこともある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録に残しの把握、個々のタイミングでの言葉かけや排泄サインに合わせ、周囲に配慮してさりげなく誘導を行っている。誘導時の声掛けも工夫しお誘いが不快にならずトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に注意し毎朝牛乳、食物繊維の多い食品提供、ラジオ体操等の軽運動で自然排便を促している。排便確認を行い便秘時は腹部マッサージ・ホットパック等出来る限り薬に頼らず済むよう努力している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間や希望を当日にご本人と相談して決めている。付添介助時は羞恥心に配慮しさりげない見守りや希望に応じて同性介助をしている。安全にも配慮し場合によっては二人介助も行っている。ゆず湯や菖蒲湯など季節のお風呂も提供している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況や時間を把握し記録に残している。眠れない時は職員と共に過ごし安心して好みの場所で休めるよう環境を整えている。照明調整や入床時間等、個々の生活リズムに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容説明書がすぐ見られるようにし変更等申し送り把握している。1階に薬局があり薬の相談が出来、状態に合わせて形状や服薬方法を検討して取り決め服薬しやすいよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の編み物や裁縫、過去の作品を持ち込み楽しんでいる。又、新たな趣味を発見し塗り絵作品をご家族がコンクールへ送って賞をもらったりと作品を共に喜び会話をもつことで達成感を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の中で体調や気分を考慮しながら散歩や買い物、畑作業、外気浴など支援している。定期的にご家族と自宅外出や知人宅訪問、外食、法要へ出席等、親族との時間を楽しんでいる。		
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に本人とご家族で所持について決めて頂いている。ホームでお金をお預かりし買い物や外出の際、お財布を持参し支払の機会を持てるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ購入や手紙・はがきを書かれて投函する等支援している。ホームへ電話があるときや本人から連絡の希望があるときは職員で取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下など季節に応じ、共同作品を飾り付けたり、行事の写真の掲示を行っている。時刻や天候に合わせて照明やカーテンで光調整を行い、窓際に植物を置き心地良い空間作りを工夫している。オープンキッチンで音や香りから、食事の楽しみと感じていただけるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやイスを多く配置し気分に応じて場所を選び過ごせる環境を作っている。共用空間でも読書スペースを設ける等、思い思いに過ごしている。自然に会話が生まれるよう席の配置にも配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前からの使い慣れた家具や寝具を使用されている方もいる。自分で作成した作品(お人形・ステンドグラスなど慣れ親しんだ物を飾ったり、ご家族の写真を掲示したりと、居心地良い空間となるよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には作品や写真を掲示しプライベートスペースとしている。トイレ・浴室に目印で認識できるよう工夫。歩行時障害となる物がないよう整理整頓し手すりを活用し安全に暮らせるよう工夫している。		